

地域交通計画検討のための移動需要推計の取組

交通システム研究部

※小林 貴 大野寛之

背景・目的

●移動困難者の問題



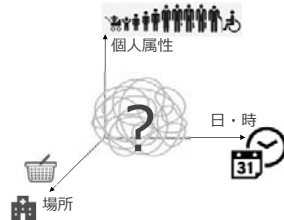
公共交通が
不便な地域

自家用車が
利用できない
(免許返納者、学生)

●移動需要把握の必要性

移動困難者はどこにどれだけいる？

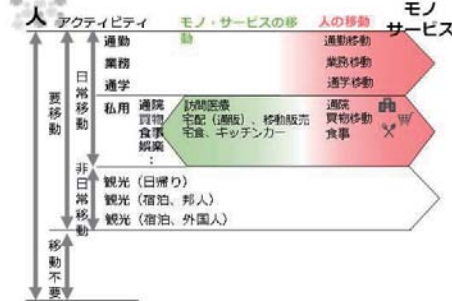
●移動需要の多様さ



【目的】 移動需要の推計に関する取組を紹介

移動需要のフレーム

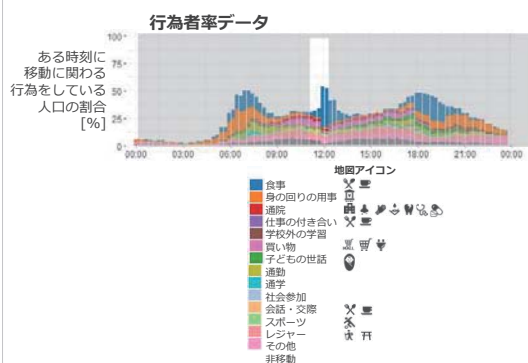
移動は人の行動（アクティビティ）から生まれる



移動需要の種類、推計の可能性

	移動需要の特徴	既存の調査	地域交通計画の検討に必要な要件	既存の調査の課題	推計の可能性
通勤 	・朝夕の時間帯のみ ・中距離の移動(数km~数十km) ・移動が顕在化しやすい ・自力で移動手段を確保できる年齢層が多い	・PT調査 ・PPデータ 	・車通勤を公共交通に転換するための詳細な通勤移動及び派生移動の把握	・PT調査は時空間的解像度が低い ・PPデータは高額、個人情報上の問題で地域によるデータ取得の難しさがある	顕在化率が高いため、PPデータを用いて詳細な時空間的解像度で把握可能
通学 	・朝夕の時間帯のみ ・中距離の移動(数km~数十km) ・公共交通や自転車での移が基本	・PT調査 ・PPデータ	・効率的なスクールバス等の運行のための移動の出発地と目的地の把握	・PT調査は解像度が低い	自治体内の情報連携ができれば、詳細に把握可能【構想中】
業務 	・主に日中の時間帯 ・多種多様な産業連関に基づく多様な移動の種類がある ・人と物の移動が含まれる	・PT調査 ・PPデータ ・全国貨物純流動調査	・物流と人流を効率化するための時空間的に詳細な移動需要の把握	・PT調査の解像度が低い ・企業秘密により詳細な出発地と目的地の把握が難しい	産業連関に基づく推計ができる可能性がある【構想中】
私用 	・宅配営業所から居住地まで ・宅配時間帯はある程度調整可能	・宅配便取扱個数	・貨客混載等、混載可能な移動需要把握	・企業秘密により詳細な出発地と目的地の把握が難しい	宅配営業所の位置がわかればある程度推計可能【開発済】
 	・一日にわたって発生 ・短距離の移動(自宅周辺数km程度) ・多様な移動の種類がある ・公共交通の整備水準により移動の顕在化率に地域差がある	・PT調査 ・PPデータ	・多様な移動目的毎に時間帯別の出発地と目的地の把握	・ゾーン内の移動が調査されないことが多い ・調査されても出発地と目的地の特定ができない	オープンデータを用いたアクティビティを考慮した推計【開発済】
観光 	・長距離の移動 ・リピート率が低い	・旅行観光消費動向調査 ・PT調査 ・PPデータ	・観光客の到達圏の把握 ・観光地の周遊行動の把握	・観光移動の詳細把握が難しい	移動需要と移動手段、観光資源のマクロなモデリングによる推計【開発中】

移動需要の推計に関する取組状況

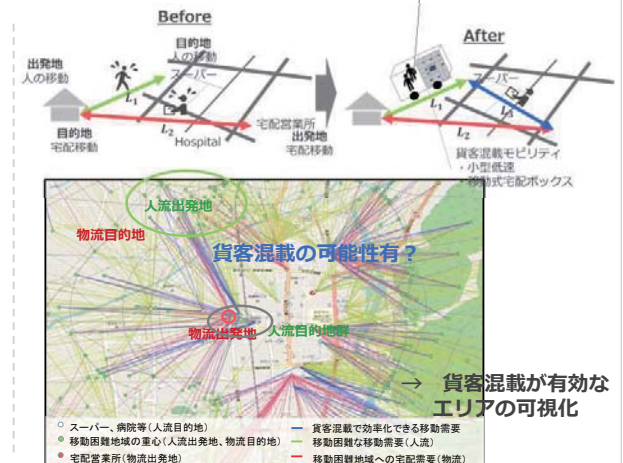


→ 交通計画の立案（バスルートの構築、再編、新規モビリティの導入）

● 私用の潜在移動需要



出発地：人口メッシュデータの重心
目的地：各施設
線の太さ：移動需要の多さ



まとめ

移動需要を捉えるフレームを提示し、地域交通計画を検討する際の既存の調査手法の課題を整理した。

●今後の課題

地域交通計画を検討する際に優先的に把握する必要があると考えられる、私用移動と観光移動について推計手法の構築に取り組む

- ・潜在移動需要の推計値を用いて交通計画案の作成手法の構築
- ・観光地にアクセス可能なエリアの人口を考慮した観光移動需要の推計手法の構築